

SHIRAKOBATO

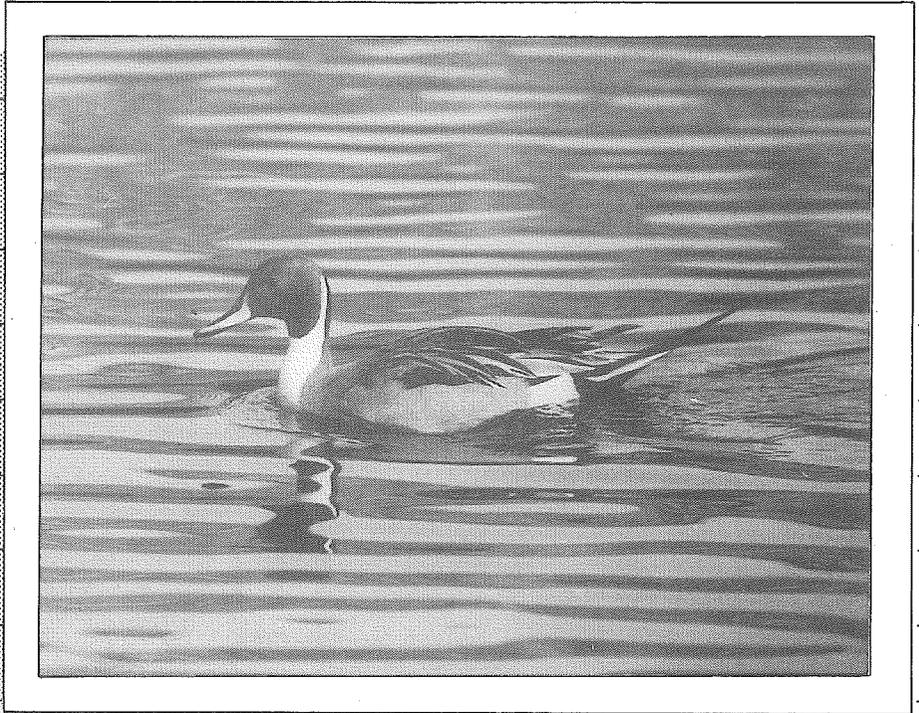
しらこぼと



1990. 3

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 70

日本野鳥の会 埼玉県支部

野鳥しゃしん考

はあと・ずりい

テクニックについてのしつかり

派閥いろいろ

機材がそろえば、野鳥写真がうつせるというものではない。肝心の鳥さんがいなければうつせない。いてもひどく遠かったり、さっさと逃げていくようでは、せっかくのカメラが泣くし、人も泣く。

何とか驚かさないうで近づいたり、近づいてきてくれるようにと、みんないろいろなテクニックを使い分けている。

「待ち派」か「迫り派」か、「ブラインド派」か「自動車派」か、そのほかたくさん派閥がうまれている。

「待ち派」か「迫り派」か

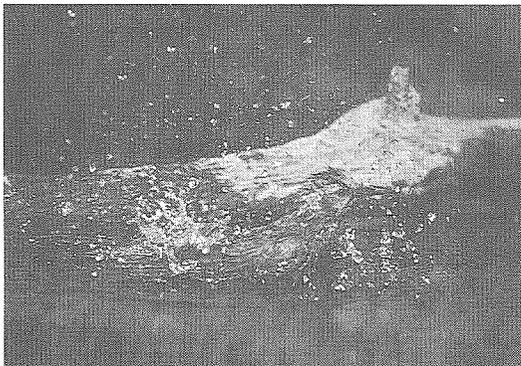
歩きまわるのがくたびれる人、にげるのを追いかけるなんて、男のこけんにかかわると思う人、当然むこうのほうから近づいてくると、なぜか自信たっぷりに思いこんじゃっている人、カメラをすえてゆっくりしているのが好きな人は「待ち派」。

重いレンズをかついで歩きまわることによる人生の楽しみを見いだしている人、匍匐前進が得意な人、じっくり待とうと思っても、ここよりあっちのほうに鳥がいるのではと考えてすぐ腰が落ち着かなくなる人は「迫り派」。

時と場合により、性格により、必然的に先ずわかれる。

ブラインド派

「待ち派」の代表。水場とか餌場、休憩場など、鳥たちが日常生活の途中にしばしば立



ブラインドの目の前でヒヨドリが水浴び

ち寄る場所にブラインドを張り、身をひそめる。うまくいった時は、まったく警戒していない鳥たちのいきいきとしたポーズをしっかりとアップでうつすことができる。うまくいかなかったときは悲惨。丸1日待って、腰が痛くなって、狭いブラインドのなかでお茶をこぼしちゃったりしたあげく、鳥のトの字も寄ってこない。

ブラインドの作り方は、例えば、釣り竿を支える棒（何と言うのだろうか）を4本、カメラと自分のまわりに立て、生地を四角に縫い合わせ、その上からすっぽり乗せる。立木類を利用して張る。支柱は立てずに、カメラと自分の頭の上から布をかぶっただけで、あとはひたすら、自分は人間ではありません、危険のないただのゴミか何かですから、気にしないでくださいというふりをしたり、涙ぐましいばかりのくふうは、それだけで1回分の特集記事が書けるほど。

注意がひとつ。だあれも近づいてくれないなど思い込んでいきなりパツと顔を出して、近くにいた鳥さんを死ぬほど驚かすなんて事がないように。ごめんごめんと言ったってもう遅いんだから。

もうひとつ。生活の場に入り込むわけだから、警戒して近寄らない様子が見えたら、さっさと撤退すること。不必要にねばりすぎて、悪影響を残してはいけない。

自動車派

最近多いのがこれ。自動車を移動式ブラインドとしてじっと待ったり、近寄ったり。

だから「待ち派」の変形的部分もあるけれども、本質的には「迫り派」。その証拠に、自動車派の人たちは、1カ所でじっとしていることは少なく、よく動く。動く機械に乗っているのだから、我慢しろといっても無理だろうけどね。

当然のことだけど、自動車の入れないところでの撮影はできない。

こまったことに、この派の一部に、悪魔の

追っかけ人間というのがいて、あっちだこっちだと珍鳥を追いかけてまわして、ゼエゼエいうほど疲れさせたり、農地にまで乗り入れたりして、ひんしゅくをかっている。

わが埼玉県支部にはそんな人はいないけれども、絶対に駄目だぞ。

呼び寄せ派

いわば積極的な「待ち派」。お目当ての鳥さんを餌づけしてしまう。そして思うがままの(?) ポーズをとらせて、うつしてしまう。あの嶋田忠さんがカワセミで衝撃のデビューをして以来、まねする人が急増している。

セットカメラで撮影することが多い。

庭のミニサンクチュアリに来る鳥を、コタツのなかからパチリとやったりしているのは罪がないが、ヤマセミ用の生簀を車に積んで運びまわったり、ちょっとどうかなと首をかしげたくなる人たちも最近目につく。

セットカメラ派

呼び寄せた鳥や水場に来る鳥にたいし、自分は遠くにいて、予めセットしたカメラを、赤外線スイッチや遠隔スイッチで作動させて撮影する。

ストロボをたいたりせずうまくできれば、鳥たちを脅かす割合が少なく、それなりに優れた方法だと思うが、巣の近くにセットして、ひなに餌を運んでくる親鳥をうつすようなやり方はやってはいけない。

写真集などに、明らかに巣の近くのセットカメラとわかる写真がよく掲載されている。強引なセットカメラのために親鳥が巣を放棄してしまい、ひなが全滅してしまったというひどい話も聞く。そんな人は野鳥写真をうつす資格もない。

傍若無人派

皆が遠慮して遠くから撮影しているのに、ずかずか平気で入り込む。地元の人たちの迷惑をかえりみない。じゃまな枝は切り払う。他人の土地に勝手に入り込む。子供が遊んでいると追い払う。エトセトラ。

野鳥の写真撮影のためには、許されるのだと、何だか知らん変な特権意識をもっちゃっているひとたちがいるみたい。

地球上から根絶したい一派。



アネハヅルが寄ってきてくれた

気楽派

じつはこれが私の理想。

いろんな苦労はさらりとやめて、ぶらぶら歩いているうちに、おっ、いい場面だねとパチリ。のんびりすわっていると、むこうから近づいてきてポーズをとってくれる。よしよし、うつしてやるよとパチリ。

アネハヅルみたいに鳥たちの人間に対する警戒心がなくなれば、重い望遠レンズさえ必要なくなって、みんな気楽に撮影できるわけだ。上野の不忍の池に行けば、カモやカワウがかなり気楽に撮影できるけれども、世界の鳥が、もっと気楽に撮影できるようにならないかな。

いずれにしても観察とがまん

どんな方法をとろうとも、鳥たちが今なにをしているのか、これからどうするのか、彼らの生活そのものをきちんと観察すること。そして、そっと撮影させてもらうために、がまんすること。それがなければ良い写真は決してとれない。

なんてえらそうに言ったって、いくら観察しても、どんなにがまんしても良い写真のとれない私書いているのだから、あまり説得力がないけどね。

しかし、先は長い。希望は持ち続けよう。いつかはきっと。うん。 (海老原美夫)

1989年秋

埼玉県のタカの渡り

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

はじめに

1989年秋のタカの渡り調査は県内7カ所で実施された(表1)。本小論はその結果と考察を述べる。

渡りの季節動向

1989年9月は彼岸の入りまで北太平洋高気圧が日本列島をおおひ、30度を越える日が続いた。9月23日寄居鐘撞堂山の予備調査の結果は、例年通り9月下旬タカの渡りが行なわれていた事を示す。9月下旬から好天気が続いたにもかかわらず、10月1日は例年(小荷田1986)(埼玉県支部研究部1988)(埼玉県支部研究部1989)又はそれ以上のタカの渡りが見られた(表1)。

飛行方向と観察羽数時間推移

5カ所の飛来、飛去方向を地図上にプロットすると、物見山上空を通過した個体が白金平、高指山、天覧山方向へ進んだ事は考えられるが観察羽数の時間推移(表2)から見ると同一ルートにあるとは考えられない。

渡りのルート

1985年からの観察結果(金井 未発表)(小荷田1986)(埼玉県支部研究部1988)(埼玉県支部研究部1989)によると、渡りのルートは少なくとも15km位の幅を持ち、当日の気圧配置や微気候によってルートが選択され(埼玉県支部研究部1988)、(埼玉県野鳥の会1984)に示されているようなルートは特定できないと思われる。

おわりに

タカの渡り調査に当たり御協力いただいた各位に対し謝意を表す。

<文献>

埼玉県野鳥の会 1984 タカ類の渡りのコースわかる 朝日新聞 1984.9.30埼玉版 浦和

小荷田行男 1986 1986年秋埼玉県のタカの渡り 第3回タカの渡りシンポジウム 予稿集 日本野鳥の会兵庫県支部 神戸

埼玉県支部研究部 1988 1987年秋埼玉県のタカの渡り しらこぼと No.46 p.4 日本野鳥の会埼玉県支部 浦和

埼玉県支部研究部 1989 1988年秋埼玉県のタカの渡り しらこぼと No.58 p.4 日本野鳥の会埼玉県支部 浦和

(執筆 小荷田行男)

表1 1989年秋 タカの渡り観察結果

月日	観察地点	観察羽数	観察時間	観察者
9/23	鐘撞堂山(寄居町)	サシバ 105 ノスリ 1 ハチクマ 2	9時~15時	杉本秀樹 他2名
9/26	阪東大橋(本庄市)	サシバ 7		井上幹男
9/30	新曾南(戸田市)	サシバ 24		駒崎政雄
10/1	秋ヶ瀬(浦和市)	サシバ 7		近藤 崇
	道 満(戸田市)	サシバ 7	6時~10時	蔵高校生物部
	鐘撞堂山(寄居町)	サシバ 25 ハチクマ 2	7時~14時	小淵健二 他2名
	物見山(東松山市) 鳩山町	サシバ 100 ハチクマ 1 ハイタカ 1 ハヤブサ 4	8時~13時	榎本秀和 他17名
	白金平(日高町)	サシバ 14 ノスリ 4	8時~ 12時半	金井祐二 他2名
	高指山(日高町)	サシバ 79 ハチクマ 5 ツミ 4	7時~12時	小荷田行男 他9名
	天覧山(飯能市)	サシバ 150 ハイタカ 1 ノスリ 1 ミサゴ 1	8時~12時	海老原美夫

表2 10月1日 サシバの飛行方向と観察羽数推移

観察地点	飛行方向		観 察 羽 数														
			8 時			9 時			10 時			11 時			12 時		
			0~19分	20~39分	40~59分	0~19分	20~39分	40~59分	0~19分	20~39分	40~59分	0~19分	20~39分	40~59分	0~19分	20~39分	40~59分
鐘撞堂山	北	西			2								1	19			
物見山	北東	南西				24	18	4	20	26		1	7				
白金平	北北東	西						1		1		1		8	2	1	
高指山	北東	南西						35	1	42	1						
天覧山	北東~東	南~西			10	18	9	4	9	1	24	5	70				



会員の声

昭和63年度鳥獣行政概要から

海老原美夫 (浦和市)

どうかこの数字を見てください。

埼玉県環境部自然保護課の発行した昭和63年度鳥獣行政概要によりますと、狩猟者によって「捕獲」された数と、有害鳥獣として「駆除」された数をあわせると、

キジバト	50,392羽
スズメ(類)	49,107羽
カモ類	13,659羽
コジュケイ	5,933羽
カラス類	4,827羽
キジ	3,425羽
ムクドリ	3,172羽
ドバト	3,130羽
ヤマドリ	810羽
タシギ	460羽
ニュウナイスズメ	388羽
ウズラ	296羽
ゴイサギ	233羽
ヒヨドリ	110羽
オナガ	110羽
ヤマシギ	74羽
バン	27羽
合計	136,153羽

カモ類の内、カルガモは7,202羽以上。そのほかのカモとしては、オナガガモ、コガモ、ヨシガモ、マガモ、ヒドリガモ、ハンビロガモ、ホシハジロ、スズガモが含まれています。

ぼう然とするような数字です。埼玉県内だけで、昨年度だけで、この数字なのです。



(岩崎雄二)

1羽1羽の命を大切に见守りたいという私たちの願いは、ものみごとと吹き飛ばされてしまいます。

なぜこんなに殺す必要があるのでしょうか。

道東 冬の鳥異変

小荷田行男 (浦和市)

冬の北海道、特に道東でなければ見られない鳥にコケワタガモ、シロハヤブサ、ユキホオジロがあります。零下10度の風が吹きつけるノサップ岬、大きく波打つ荒れる海に10羽位が群れになって浮んでいるコケワタガモ、地味なメスの中にせいぜい2,3羽白い頭に緑の帽子をかぶったオスがいます。落石岬のいつもの場所にいつもの時間に行くと、あの白いシロハヤブサが帰ってきます。晴れ上った風蓮湖春国岱の森の上空を、冬の輝やく太陽に照らされて白くまぶしく輝やいているシロハヤブサの姿を見ました。神々しいばかりの風景でした。海岸草原のイネ科やカヤツリグサ科の枯草に残っている種をついばんでいるのはユキホオジロです。白い翼をひらひらとはばたきながら草の実をついばむ姿は、平安朝の舞いのように華麗です。

1989年夏の極東、冷温帯北部、亜寒帯南部の高温により森の実りは豊かです。1990年冬のオホーツク海は去年に引き続き気温の高い状態が続いています。地球規模の温暖化が、冬の西高東低の気圧配置の固定化をはばみ暖たかい冬を作り出しました。

この年末年始、コケワタガモはノサップ岬に姿を見せません。シロハヤブサは昨シーズンから見ません。アトリ科は極端に少なく海ガモ類の南下数も減っています。冬の道東の鳥相は年々確実に変わっています。



(押川歳子)

鳥情報

※
オオハムSP? ◇12月31日午前11時~12時、狭山湖で1羽。狭山堤防南端から北へ50m、堤防から約30m付近の水面にアビ類の形をした鳥を発見した。くちばしはまっすぐで、背中から頭にかけて上面は灰褐色、下面は白で、色あいは、カンムリカイツブリとよく似ていた。背中に白斑がないのと、くちばしがまっすぐであったので、アビではないと判断した。カルガモの近くを通った時に大きさを比較したところ、ほぼ同じ大きさであったので、シロエリオオハムだと判断したが、大きさだけでは判断できないとのことなので、オオハムの可能性もある。カンムリカイツブリと並んだ時もほとんど同じ大きさに見えた。カンムリカイツブリとは別行動だった。一度潜ると2分以上潜っていることが多かったようだ。写真は撮れなかった(三田長久)。

ハジロカイツブリ ◇1月3日、狭山湖で1羽(中村 治)。

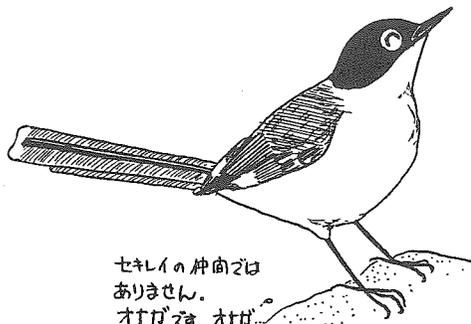
カワウ ◇12月4日、妻沼町の刀水橋上流に約300羽降りる(市川計彦)。

トモエガモ ◇12月31日、久喜市の久喜菖蒲公園の昭和池で♂3羽(山口輝雄)。◇1月2日、狭山湖で♂2羽♀2羽(三田長久)。

ヨシガモ ◇1月3日、狭山湖で♂2羽♀1羽(中村 治)。

オカヨシガモ ◇12月31日、朝霞市の新河岸川で♂1羽♀3羽(中村 治)。

アメリカヒドリ ◇12月31日、久喜市の久喜菖蒲公園の昭和池で♂1羽(山口輝雄)。



(黒田佳子)

ホオジロガモ ◇12月2日、本庄市の阪東大橋下流で幼鳥1羽(井上幹男)。◇12月23日、狭山湖で♂2羽♀2羽(三田長久)。

ミコアイサ ◇12月2日、本庄市の阪東大橋下流で♂1羽♀3羽(井上幹男)。

カワアイサ ◇12月23日、本庄市の阪東大橋下流で27羽(井上幹男)。

オオタカ ◇12月23日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(井上幹男)。◇1月3日午前10時30分、坂戸市の城西大学上空で1羽。悪いカラスにまといつかれていた(岩沢房雄、増尾 隆)。◇1月15日、戸田市道満で2羽(駒崎政雄)。

ハイタカ ◇12月5日、吉見町南吉見の農耕地で2羽(市川計彦)。

ノスリ ◇12月5日、吉見町の荒川河川敷で1羽(市川計彦)。◇12月23日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(井上幹男)。◇1月15日、戸田市道満で1羽(駒崎政雄)。◇1月15日、滑川町の森林公園で2羽(高橋夕香子、諏訪隆久、小淵健二他)。

ハヤブサ ◇12月23日、本庄市の阪東大橋下流で2羽(井上幹男)。

チョウゲンボウ ◇12月5日、吉見町の荒川河川敷で1羽(市川計彦)。◇12月12日、妻沼町の刀水橋上流で2羽(市川計彦)。

ハジロコチドリ ◇1月6日及び15日、戸田市道満で1羽。コチドリと共に行動していたが、コチドリより少し大きい。足の色が濃い黄色、飛んだ時に翼の白帯がイカルチドリの場合よりはっきりと出ている。以上の点からハジロコチドリと判断した。写真は撮れなかった(駒崎政雄)。

コチドリ ◇1月15日、戸田市道満で12羽(駒崎政雄)。

シロチドリ ◇1月15日、戸田市道満で8羽(駒崎政雄)。

エリマキシギ ◇1月6日、戸田市道満で1羽(駒崎政雄)。

アオアシシギ ◇12月17日、妻沼町の刀水橋上流で1羽(市川計彦)。

セグロカモメ ◇12月26日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。◇1月2日、狭山湖で垂成鳥1羽(三田長久)。1月3

日、同所で成鳥2羽(中村 治)。

オオセグロカモメ ◇1月3日、本庄市の阪東大橋下流で1羽。写真有り(町田好一郎)。県内初記録。

コミミズク ◇11月30日、戸田市道満で1羽(駒崎政雄)。

ヒメアマツバメ ◇1月3日午前10時25分、坂戸市の城西大学上空で50羽以上(岩沢房雄、増尾 隆)。

カワセミ ◇12月30日、鶴ヶ島町高倉で♂1羽(中村 治)。◇1月3日午後3時及び1月4日午後2時30分、庄和町総合公園近くの用水路で1羽。小魚をねらって何回もダイビングする姿に感動しながら夢中でシャッターをきった。翌日もまさかと思いつつ行ってみたら、同じ場所でダイビングしていたのには驚いた(東 博)。

アリスイ ◇12月23日、戸田市道満で1羽(駒崎政雄)。

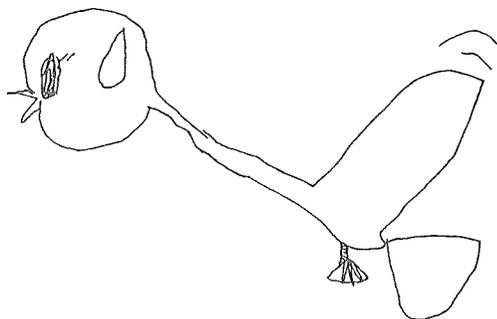
アオゲラ ◇12月30日、鶴ヶ島町高倉で2羽(中村 治)。◇1月17日、寄居町の鐘撞堂山で2羽(田口浩司)。

カヤクグリ ◇1月17日、寄居町の鐘撞堂山で1羽。アオジと共に雪のとけた所でエサをついばむ(田口浩司)。

ルリビタキ ◇12月29日、浦和市常盤1丁目の自宅の庭で♂1羽(江原達也)。◇12月30日、狭山市沢久保の自宅付近で♂1羽♀1羽。あこがれの青い鳥発見!!(三田長久)。◇1月17日、寄居町の鐘撞堂山で♀1羽(田口浩司)。

トラツグミ ◇1月8日、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。

アカハラ ◇1月1日、鴻巣市人形町の自宅そばの藪で1羽(内藤義雄)。◇1月10日、大宮市丸ヶ崎の自宅の庭で♂1羽。昨冬より



(えのもと なつの)

だいふ遅い到着だった。寒い朝だったので羽毛をふくらませて丸くなっていた姿は、一瞬ジョウビタキかと思ってしまった(金子真理)。

シロハラ ◇12月30日、鶴ヶ島町高倉で1羽(中村 治)。◇1月7日、北本市の荒井橋付近で1羽(内藤義雄)。◇1月8日、大宮市日進町で1羽(森本國夫)。

ウグイス ◇1月2日、上福岡市上福岡でなぜかさえずっていた(中村 治)。

エナガ ◇1月17日、寄居町の鐘撞堂山で約40羽(田口浩司)。

コガラ ◇12月31日、朝霞市の城山公園で1羽(中村 治)。

コイカル ◇12月30日、鶴ヶ島町高倉で♂2羽♀3羽(中村 治)。

イカル ◇12月30日、鶴ヶ島町高倉で2羽(中村 治)。

※SP:種を現す英語のspeciesの略。この場合はオオハム類の一種ということ。チョット一言 県産鳥類リスト(1990年1月)に記述されていない種は、原則として、写真等の裏付けがある場合以外、鳥名の末尾に?をつけます。

表紙の写真

1989バードフォトコンテスト入選作

オナガガモ(ガンカモ科)

朝の公園は、ジョギングや体操の人たちでにぎやかです。明け方まで仕事をして、息抜きに、自転車に乗ってカメラを持ってやって来たら、ちょっと水面がきれいなので、写してみました。

スマートなスタイルがキマっていますね。水がぬるんできたので、北へ帰ります。霜のおりるころまた戻ってきます。その時はもっとキレイに撮ってくださいね。1989年4月上旬/井の頭公園にて。(林 滋・美里町)

行事あんない



長野県・軽井沢探鳥会

期日：3月4日（日）

集合：午前9時10分 信越本線中軽井沢駅前

交通：高崎線大宮6：42発普通電車に乗車、
高崎で特急に乗り換え、中軽井沢下車。
大宮7：22発特急あさま1号利用も可。

費用：タクシーに分乗しますので、タクシー
代若干をご負担願います。

解散：現地にて午後3時ごろ

担当：中島康夫、福井恒人、楠見邦博

見どころ：紅一点、雪上にゆかしく赤い鳥。
積雪、降雪が予想されますので、防寒
と足ごしらえは厳重に。

千葉県・谷津干潟探鳥会

期日：3月10日（土）

集合：午前9時30分 京葉線南船橋駅前

交通：武蔵野線北朝霞8：18発→武蔵浦和8
：26→南浦和8：29→南船橋9：20着

解散：午後2時ごろ

担当：杉本秀樹

見どころ：越冬するシギ・チドリ・カモメの
群。干潟に生きる彼らの姿に注目。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3月11日（日）

集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前

交通：秩父鉄道熊谷9：00発→大麻生9：10
着／ 秩父鉄道寄居8：52発→大麻生
9：10着

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。

探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記
用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼
鏡など。参加費は、一般＝100円、会員及び
中学生以下＝50円。受付は探鳥会当日です。
特別な場合を除いて予約申込みの必要はあり
ません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物
を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻
やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。
いつもフィールドマナーをお忘れなく。

身支度ができたら、さあ出発！

解散：午後1時ごろ

担当：諏訪隆久、岡安征也、林滋、町田好一
郎、小淵健二、逸見嶮、関口善孝、高
橋夕香子、田口浩司、宮坂亨

見どころ：コハクチョウは旅立ち間近。春の
きざしをいち早く感じ取って、冬鳥は
北の国へ向けて飛び立ちます。

荒川村・日野溪谷探鳥会

期日：3月11日（日）

集合：午前10時 秩父鉄道武州日野駅前

交通：秩父鉄道熊谷8：25発（入線8：11）
→武州日野9：46着／ 西武秩父線所
沢8：19発快速急行（秩父鉄道直通）
→西武秩父9：38→武州日野9：54着

解散：午後2時ごろ

担当：林滋、海老原美夫、福井恒人

見どころ：色とりどり、山の小鳥（I）。マ
ヒワやアトリがみんなをお出迎え。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：3月18日（日）

集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または
午前9時 浦和市立郷土博物館前
（北浦和駅の場合、その後バス利用）

解散：午後1時ごろ

後援：浦和市立郷土博物館

担当：楠見邦博、伊藤芳晴、笠原伸子、手塚
正義、渡辺周司、乗田実、福井恒人

見どころ：春よ来い、三室の里。春信をたず
さえて、ツバメの第一陣到着？

秩父市・羊山公園探鳥会

期日：3月21日（水・祝）
集合：午前9時40分 西武秩父駅前
交通：秩父鉄道熊谷8：25発（入線8：11）
→御花畑9：31着、徒歩5分／西武
秩父線については日野溪谷探鳥会（3
月11日）の記事参照。

解散：午後1時ごろ
担当：福井恒人、海老原美夫、林滋
見どころ：色とりどり、山の小鳥（Ⅱ）。た
っぷり楽しんだあとは、秩父市街を一
望する広場でお弁当。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：3月25日（日）
集合：午前9時 東武越生線川角駅前
交通：川越線大宮7：35発→川越7：54着、
東武東上線乗り換え8：33発急行→坂
戸8：46着、越生線乗り換え、8：49
発→川角8：58着

解散：午後2時ごろ
担当：藤原寛治、宮内武昭、長谷部謙二、石
井幸男
見どころ：水ぬるむ川面にカワセミの影。水
辺にたたずむカワセミ君、ガールフレ
ンド募集中？

川口市・差間探鳥会

期日：3月25日（日）
集合：午前9時 武蔵野線東浦和駅前
交通：武蔵野線北朝霞8：44発→武蔵浦和8
：51→南浦和8：54→東浦和8：58着
解散：午後1時ごろ
担当：手塚正義、伊藤芳晴、登坂久雄
見どころ：早春の差間、のんびり探鳥。旅立
ち近い冬鳥に、そろそろお別れの挨拶
をしておきますか。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：3月31日（土）午後1時～3時ごろ
会場：支部事務局
案内：春めく土曜の昼下り。愉快におしゃべ
り、楽しく袋づめ。

野鳥写真クラブ定例会

とき：3月31日（土）午後3時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
案内：袋づめが終わったら、写真クラブの始ま
りです。今日はどうなスライドが見ら
れるかな。

寄居町・金尾山探鳥会

期日：4月1日（日）
集合：午前9時35分 秩父鉄道波久礼駅前
交通：秩父鉄道熊谷9：00発→寄居9：30→
波久礼9：35着
解散：午後1時ごろ
担当：林滋、町田好一郎、諏訪隆久、新井清
子、田口浩司、宮坂亨
見どころ：山村のたたずまいと山の小鳥たち。
波久礼は「はぐれ」と読みます。はぐ
れないでね。

浦和市・秋ヶ瀬探鳥会

期日：4月1日（日）
集合：午前9時 浦和駅西口バスロータリー
（その後現地までバス利用）
解散：午後1時ごろ
担当：小林みどり、海老原美夫、伊藤芳晴、
登坂久雄、角田真喜子
見どころ：春の秋ヶ瀬探険隊。秋ヶ瀬を熟知
しているリーダーが、楽しい自然体験
のひとつをプレゼント。

東京都・三宅島探鳥会（要予約）

期日：4月20日（金）夜～22日（日）夜
集合：20日20時 浜松町駅東京寄りの改札口
帰路：東京港に22日19時20分到着の予定
費用：約17,000円の予定（宿泊費、往復船賃
含む。ただし島でのバス代は各自負担）
定員：20名程度（先着順、県支部会員優先）
申込み：往復葉書に住所、氏名、電話番号、
年齢、性別を書いて北川慎一
まで。

担当：北川慎一、榎本秀和、草間和子
見どころ：海と島と鳥の旅。胸ワクワクの三
宅島。朝から晩までトリ、トリ、トリ。

行事報告

12月3日(日) 北川辺町 渡良瀬遊水池

人 36人 天気 晴 鳥 カイツブリ カンムリカイツブリ カワウ ダイサギ コサギ アオサギ コハクチョウ マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ ハシビロガモ キンクロハジロ ミコアイサ トビ ノスリ チュウヒ チョウゲンボウ コジュケイ キジ キジバト ヒバリ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ホオジロ カシラダカ オオジュリン カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (39種) 遊水池の北側は一面の草原。猛禽の里だ。今日もノスリやチュウヒが歓迎してくれる。夕暮時なら、コチョウゲンボウやコミミズクも出現するらしい。南側に見渡す限りの人工池。カモの中には珍鳥が入っているはずだが、数が多いのと距離が離れていることで、誰かが探してくれるのを待つのが、ここでの正しい探鳥の仕方である??

12月24日(土) 年末講演会

人 59人 風邪をひいて38度以上の熱があったし、本当は北海道に行きたかったのも我慢して、埼玉県支部のために講演して下さった写真家の叶内拓哉さん=写真下=、本当にありがとうございました。



支部事務局内での賑やかな懇親会で、叶内さんと話をしていた会員の中には、あの日以降風邪をひいた人がいましたから、きっと叶内さんの風邪は治ったのではないのでしょうか。

1月3日(水) 浦和市 さぎ山記念公園

人 62人 天気 晴 鳥 カワウ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ コジュケイ タゲリ タシギ キジバト コゲラ ヒバリ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 恒例、年の初めのホロ酔い探鳥会。20羽位のタゲリの舞いを堪能した後は、暖かい芝生の上でカンパニー。今年もすてきな出会いがいろいろありそうな予感。

1月7日(日) 久喜市 昭和池

人 21人 天気 晴 鳥 カイツブリ ハジロカイツブリ カンムリカイツブリ カワウ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ ヒドリガモ アメリカヒドリ オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ ユリカモメ キジバト ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ ツグミ メジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシブトガラス (28種) 今年はず年に比べてトモエガモの飛来数が多く、およそ60羽を数えた。他にもアメリカヒドリなどが居て、初めて見る人を喜ばせた。

1月13日(土) 長野県 軽井沢

人 39人 天気 晴 鳥 カイツブリ コガモ ノスリ ヤマドリ キジバト カワセミ

アオゲラ アカゲラ コゲラ キセキレイ
セグロセキレイ ヒヨドリ カワガラス ミ
ソサザイ トラツグミ ツグミ エナガ コ
ガラ ヒガラ ヤマガラ シジュウカラ ゴ
ジュウカラ ホオジロ カワラヒワ ベニマ
シコ ウソ イカル スズメ カケス オナ
ガ ハシボソガラス ハシブトガラス(32種)
旧軽井沢の別荘地周辺ではトラツグミやウソ
を、野鳥の森には入れなかったが、その周辺
ではヤマドリやベニマシコなどを見られた。
今年、例年より赤い鳥が少なく残念。

1月14日(日) 川越市 西川越

人 33人 天気 曇 鳥 カイツブリ ゴイ
サギ ダイサギ コサギ マガモ カルガモ
コガモ オナガガモ ハシビロガモ コジュ
ケイ イカルチドリ タゲリ ハマシギ イ
ソシギ タシギ ユリカモメ キジバト カ
ワセミ ヒバリ ハクセキレイ セグロセキ
レイ タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビ
タキ ツグミ ウグイス シジュウカラ ホ
オジロ カシラダカ アオジ カワラヒワ
シメ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソ
ガラス ハシブトガラス(38種)新しい探鳥
地での第1回の探鳥会。あいにくの曇り空で
寒かったけど気分はホット。河原ではユリカ
モメ、カワセミなど多くの鳥が出迎えてくれ、
リーダーもにっこり。次回は、あなたも是非
どうぞ。

1月20日(土) 茨城県岩井市 菅生沼

人 8人 天気 曇 鳥 カイツブリ ダイ
サギ コサギ アオサギ コハクチョウ マ
ガモ カルガモ コガモ オカヨシガモ オ
ナガガモ オオタカ ノスリ コジュケイ
キジ バン イカルチドリ タゲリ タカブ
シギ タシギ ユリカモメ キジバト コミ
ミズク カワセミ アオゲラ コゲラ ハク
セキレイ セグロセキレイ タヒバリ ヒヨ
ドリ モズ ルリビタキ ジョウビタキ ト
ラツグミ アカハラ シロハラ ツグミ ウ
グイス シジュウカラ メジロ ホオジロ
カシラダカ アオジ オオジュリン カワ
ラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス オ

ナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(51
種) ルリビタキから始まり、最後は100羽位
のコハクチョウで締めくくり。参加者は少な
かったが、出現鳥は最高。菅生沼は素晴らし
いところだ。あなたも次回は是非参加を!

1月20日~21日(土~日)千葉県 銚子港

人 14人 天気 曇 鳥 ハジロカイツブリ
ウミウ ヒメウ コサギ カルガモ オナガ
ガモ ビロードキンクロ シノリガモ ユリ
カモメ セグロカモメ オオセグロカモメ
ワシカモメ シロカモメ ウミネコ ミツユ
ビカモメ カナダカモメ キジバト ハクセ
キレイ タヒバリ ヒヨドリ ジョウビタキ
イソヒヨドリ ツグミ スズメ ムクドリ
ハシボソガラス ハシブトガラス(27種)カ
モメ、カモメまたカモメ。海なし県から遠征
して8種のカモメを見てきた。カナダカモメ
という珍鳥も出現して。前夜から泊まり込ん
で、海の幸に舌鼓を打ちつつ、講師の鈴木恒
二氏(茨城県支部幹事)のスライドを使って
の識別講座でバッチリ予習も。もう、埼玉に
珍しいカモメが現われても私たちに任せてく
ださい?!

1月28日(日) 吉見町 吉見百穴周辺

人 58人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサ
ギ マガモ カルガモ コガモ トモエガモ
オナガガモ ハシビロガモ ホシハジロ キ
ンクロハジロ ハヤブサ タゲリ タシギ
ユリカモメ キジバト カワセミ コゲラ
キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ
タヒバリ ヒヨドリ モズ ジョウビタキ
シロハラ ツグミ ウグイス シジュウカラ
メジロ ホオジロ カシラダカ アオジ カ
ワラヒワ シメ スズメ ムクドリ カケス
オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス
(40種) タゲリを目当てとする人が多かった
のか、いつもより賑やかな探鳥会。担当リー
ダーお勧めのトモエガモ(♂5♀1)は全員
がじっくり観察した。肝心のタゲリは何人が
見ただけだったが、終了後にはちゃんと現
われて喜ばせてくれた。それにしても40種と
は、吉見ってすごい。



ファックスの送信にご注意

支部事務局にファックスでご連絡くださる方が増えていますが、ひとつご注意いただきたいことがあります。

当支部のファックスは、電話と兼用になっています。ですから、こちらの受信態勢ができていないうちに送信されますと、受信できません。

留守番電話に接続されているときは、メッセージに従い、ピーという受信音がしてから送信してください。

電話がつながったときには、留守番電話をセットしたうえで、もう一度かけ直していただくこともあります。

お手数で申し訳ありませんが、よろしくお願ひします。

春のタカの渡りにご注意

毎年秋にはタカの渡りが観察される事は良く知られており、支部として継続調査もしていますが、最近、春にも観察されることが分かってきて、昨年から予備調査を始めています。

3月中ごろから5月初めごろにかけて、渡り途中と思われるタカが観察されましたら、次の要領を参考に、分かる範囲で、事務局まで情報をお寄せください。

観察年月日/場所/地形(山頂・尾根・農耕地・川原・市街地など)/通過時刻/鳥種名/羽数/飛来方向/飛去方向/高度(調査地点より下・15m位までの高さ・肉眼で容易にタカが識別できる高さ・肉眼でやっとタカが見える高さ・双眼鏡でないとタカが見えない高さ)/天候・風向・風力・気温/観察者/その他気がついたこと。

3月の土曜日当番(午後2~6時)

- 3月3日(土) 研究部(部会議を兼ねて)
- 3月10日(土) 諏訪隆久、町田好一郎
- 3月17日(土) 榎本秀和、森本國夫
- 3月24日(土) 岡安征也、草間和子
- 3月31日(土) 袋づめの会(1時から)

ありがとうございます

- 次の方々からご寄付をいただきました。
坂井和子1,000円、杉本秀樹5,000円、田口浩司558円、銚子探鳥会参加者4,370円。
- 次の方々からは支部賛助会費(通常の会費との差額分8,000円)をいただきました。
楠見邦博、森本國夫。

(いずれも50音順、敬称略)

会員数は

2月1日現在1,206人です。

活動報告

- 1月29日 『しらこぼと』2月号を郵便局から発送(海老原教子、藤野富代)。
- 2月3日 土曜日当番(2月号に掲載できなかった分=角田真喜子、小林芳江)。
- 2月3~4日 役員リーダー泊研修懇親会(茨城県にて、32名参加)。



昨年秋に転居してからは、平日は時間に追われて鳥とはあまり縁のない生活になりました。職住接近の宿舎に住んでいたころは、我が家の餌台を見ることから始まる5分間の徒歩通勤の道すがら、いろいろな鳥を楽しみました。落鳥しているのを見つけることも多く、子供たちと埋葬していたのですが、今でも学校帰りに見つけると墓を作ってあげているようで、うれしく思っています。

(森本國夫)

『しらこぼと』1990年3月号(第70号)

定価 100円(会費に含まれます)

発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062

〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号ブルームローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)